

ただ 1. 花弁は長だ円状卵形または卵状披針形，鋭頭，距が発達しない；2. 花弁は萼片と共に斜開する；3. 萼片は長さ 3 cm，幅 0.8 cm。花弁は長さ 2.6 cm，幅 1 cm ほどで，全体大形である；などの点で異っている。特に花弁が鋭頭である点がヤマオダマキの仲間では特異である。子房は有毛であるからヤマオダマキの仲間に相違ない。これをイナヤマオダマキと新称する。キバナヤマオダマキは母種と共に中部山岳地帯にはかなり生育していて，下伊那地方でもごく普通である。イナヤマオダマキは今のところ蛇峠山北東斜面を流れる陣ヶ畑沢 1400~1500 m の溪側の陽性草地や砂礫地だけが知られているが，現地では案外多かった。（長野県下伊那郡阿智中学校）

*Aquilegia buergeriana* Sieb. et Zucc. f. *ecalcarato-lanceolata* Asano, f. nov.

Flores nutantes, membranacei, viridiflavi, sepalis oblongo-lanceolatis apice acutis vel attenuatis basi rotundatis 2.7-3 cm longis 0.9 cm latis, petalis ca. 2.6 cm longis 0.8-1.0 cm latis oblongo-ovatis apice obtusis vel acutis basi rotundatis, calcaribus rudimentalibus.

Hab. Japonia, Honshu media: Prov. Shinano; Mt. Jatoge, Jingahatazawa in Namiai-mura, Shimoina-gun (K. Asano, no. 3869, Juli 12, 1964, Typus in TI). Growing in sunny and sandy humid herbage along stream, alt. 1400-1500 m.

○ジャカゴトウバナ (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: A new cultivar of *Clinopodium gracile*

戦後まもなくのころ，小石川植物園に変わったトウバナが栽培されていた。種類としてはトウバナであるが，茎は直立して殆んど分枝せず，高さ 3-5 cm となり，茎全体をしわ状の丸味のある葉が密に重なって包んでいて，丁度，サギゴケの園芸品のジャカゴソウと同じ形であるので，ジャカゴトウバナと新称する。ジャカゴソウの栽培はなかなかむずかしいが，これは種子で容易に繁殖し，栽培は楽である。ただ丈が低いので注意してやらないと消滅してしまう。小石川植物園ではその後なくなってしまったが，一部の園芸家の間に保存されている。この植物の出所は明らかでない。広瀬巨海氏の所から出たといわれるが定かでない。（東京大学理学部）

*Clinopodium gracile* (Bentham) O. Kuntze cv. *crispatum* cv. nov.

Caulis erectus, simplex, 3-5 cm elatus. Folia crispata, contorta, 5-7 mm longa, 5-6 mm lata.

Hab. Saginomiya, Tokyo cult. (T. Yamazaki, May 16, 1974).